

令和8年熊本地震被災地に対する支援

●佐賀県からの支援状況

職員派遣数:42名(うち市町15名)	(8月25日現在)
・氷川町公民館(避難所支援)	10名(うち市町職員 4名)
・氷川町(家屋被害認定調査)	20名(うち市町職員 10名)
・氷川町役場(総括支援員、リエゾン)	6名
・氷川町役場(保健師等)	4名(うち市町職員 1名)
・熊本県災害対策本部(リエゾン)	2名
※氷川町への支援の延べ人数は1,096名(県671名、市町425名)	
※県内全20市町が職員を派遣	

- ・28日18:00～ 熊本県ヘリエゾン2名派遣
→ 熊本県災害対策本部(熊本県庁)にて情報収集、調整等業務
- ・29日 6:25～ 氷川町役場ヘリエゾン2名派遣
8月1日～ 総括支援員3名(三角局長)追加
3日～ リエゾン1名追加
6日～ リエゾン1名追加
18日～ 体制見直しによるリエゾン1名減
→ 氷川町役場にて支援業務6名体制
- ・29日 消防防災ヘリコプターかちどき派遣(緊援隊航空小隊として)
～30日まで熊本空港進出(搬送実績1件)
31日～8月8日 自県待機
- ・29日 21:30～ 避難所運営4名派遣
31日～ 市町職員2名追加
8月3日～ 4名(県(2)、市町(2))追加
→ 氷川町公民館で運営業務10名体制
- ・30日 物資支援
トイレカー1台、避難所トイレ資機材10個(4,200 回分)

通信確保機材(スターリンク)2台

- ・31日 厚労省要請による保健師等派遣(氷川町)
→保健師2名、栄養士1名、業務調整員1名
(期間)7月31日～9月30日
- ・8月1日 被災建築物応急危険度判定士派遣
→県(技術)職員2名、佐賀市職員2名
(期間)8月1日～8月9日
全国被災建築物応急危険度判定協議会からの要請
- ・8月3日 厚労省要請による DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)
派遣(宇城保健所)
→保健所医師2名、保健師2名
(期間)8月3日～8月16日
- ・8月6日 氷川町へ家屋被害認定調査20名派遣
→県職員10名、市町職員10名(県内全20市町職員より派遣)

●CSO(23団体)が支援活動

SPF、おもやい、Public Gate 合同会社、佐賀青年会議所、唐津青年会議所、パトラン SAGA、佐賀レスキューサポート・バイクネットワーク、さがひな市、佐賀未来創造基金、ピースボート災害支援センター、シビックフォース、日本レスキュー協会、ピースウィンズジャパン、ジャパンハート、グッドネーバーズジャパン、日本カーシェアリング協会、難民を助ける会、テラ・ルネッサンス、オカベース、つながレンガ座、地球市民の会、鳥栖青年会議所、ソシオの杜

●佐賀県内市町からの支援

- ・みやき町:トイレカー2台、トイレトレーラー1台を氷川町へ支援(サポートスタッフ2名派遣)
- ・神埼市:シャワーテントを氷川町へ支援(サポートスタッフ2名派遣)
- ・佐賀市、唐津市、佐賀西部水道企業団、佐賀東部水道企業団:
日本水道協会九州地方支部の要請により、給水車派遣
- ・佐賀市:日本水道協会九州地方支部(福岡市)の要請により、佐賀市職員(2名)、管工事協同組合職員(6名)を熊本県甲佐町へ派遣

- ・佐賀市、唐津市、鳥栖市：九州山口ブロック下水道対策本部（福岡県）の要請により、下水道技術職員を宇土市へ派遣
- ・伊万里市：災害時相互応援協定により菊池市（2名）、嘉島町（2名）及び給水車派遣
- ・緊急消防援助隊派遣

●その他

佐賀県営住宅一時提供受付中

義援金

- ・義援金箱設置：県庁県民ホール等6箇所
- ・佐賀県共同募金会義援金

●その他支援活動

- ・DMAT（災害派遣医療チーム）派遣：佐賀大学、好生館、嬉野医療センター、白石共立病院、やよいがおか鹿毛病院、公立佐賀中央病院、伊万里有田共立病院
- ・DPAT（災害派遣精神医療チーム）派遣：神野病院、清友病院、早津江病院、ふじの森ホスピタル、肥前精神医療センター、嬉野温泉病院
- ・DiaMAT（災害時糖尿病医療支援チーム）派遣：県内3医療機関（伊万里有田共立病院、佐賀大学、公立佐賀中央病院）
- ・日赤佐賀県支部派遣：唐津市赤十字病院医師等を派遣
- ・DWAT（災害派遣福祉チーム）派遣：県内介護福祉士
- ・災害支援ナース派遣：県内病院看護師
- ・JMAT（災害医療チーム）派遣：佐賀県医師会（山元記念病院、織田病院、佐賀中部病院、ひらまつ病院）
- ・JDAT（日本災害歯科支援チーム）派遣：佐賀県歯科医師会